



いいたて 議会だより

平成28年12月定例会
No.
73
2017.2.3

発行：福島県飯館村議会
編集：議会広報編集特別委員会



いいたて村民ふれあい集会(パルゼいざかほて)

議案審議「ザ・議論」	2
一般質問「村政 ここが聞きたい？」	3~7
審議結果	8
常任委員会活動	9
議会の動き・編集後記	10

ザ・議論

平成28年
第11回 飯館村議会定例会
議案第101号『平成28年度
一般会計補正予算』（第9号）

交流センター 自動ドア交換工事

質問 自動ドア交換工事に172万8千円が計上されている。木製のドアをアルミに変更したいとの説明であるがオープンして5ヶ月が経過したばかりである。瑕疵担保という部分で施工業者や設計業者等との協議はどのようにされたのか。

答弁 村として品質は確保されていると考えていたところであるが自動ドアの木製部分が雨等によって、一部めくりあがってドアの開閉に支障を来たしたため、木製部分をねじ止めしている。今後同じようなことが起こるとドアの開閉に支障が出るのでこれをアルミに改修したい。施工業者では応急処置はしたが、設計通り行なっているのではないかと

言っている。設計の方は品質に関しては仕様の中に書いてあるということと、設計業者と費用負担について協議をしている。

質問 現場を確認したが、木製の部分を交換すれば十分ではないか。

答弁 オーダーメイドということ、工場に持ち帰り修理するため工費が高くなっている。

質問 外側に木質の部分

を設計するということは結果的にどうだったのか。竣工検査が通ったのであれば村にも責任はある。瑕疵担保の部分で精査してできるだけ税金を使わないような修繕をすべきである。

答弁 少しでも多く出していただけよう設計業者と協議していきたい。

道の駅「までい館」 の太陽光発電設備

質問 この太陽光発電設備を最初に設置する計画はなかったのか。

答弁 当初の道の駅構想の中には、本体に太陽光を設置する計画はなかった。

質問 太陽光発電設備は、現在計画している「までい館」の屋根に設置するののか。

用駐車場に架台をかけて、駐車スペースを空けた上に太陽光パネルを並べて設置する計画である。

質問 どの位の規模を計画しているのか。

答弁 30キロワットを想定している。

質問 どのような協議をされたのか。

答弁 建設費については、道の駅を防災の拠点として、防災拠点支援事業により整備したい。

営農再開ビジョン

質問 営農再開ビジョンの内容はどのように考えているのか。

答弁 営農再開検討会議を現在まで5回行い1月中にはまとめ印刷製本したい。

フローチャート図的なものを使いながら方向を導きだせるようにしたい。

家電リサイクル対象品等の処理業務

質問 家電リサイクル処分業務とは何か。

答弁 草野小体育館に仮設住宅から撤去したエアコンや家電品等を保管している。今回行政区あるいは一般の皆さんに対して、ご希望があれば無償でお渡しをして残ったものを業者に処分をお願いしたいと考えている。



道の駅「までい館」の建設状況

ズバリ 村政

一般質問 Q & A

ここが
ききたい？

12月定例会の一般質問に4議員が登壇し、村の対応や考えなどを問いました。
次ページからは、質問した順に質疑応答を要約し掲載しています。

松下 義喜 議員

- 1 徹底した除染と情報開示について
- 2 村内での営農・営業再開への支援について
- 3 地域コミュニティの推進について
- 4 飯館ならではの教育について
- 5 陽はまた昇る基金の活用について
- 6 村民の生活環境改善について

高野 孝一 議員

- 1 平成29年度予算編成について
- 2 除染について
- 3 防災体制について
- 4 教育行政について

相良 弘 議員

- 1 帰村者の安心・安全確保について
- 2 商工会の補助金について

伊東 利 議員

- 1 除染について
- 2 営農再開支援の対策について
- 3 河川の堆積物除去について
- 4 パークゴルフ場整備について

※一般質問とは

議員が村の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等についての所信や疑問をただすことで、報告や説明を求めるところをいいます。





松下 義喜 議員

質 今後の主要施策について

答 生活の安定と復興のため頑張る

徹底した除染と情報公開について

答弁 全世界帯のガンマカメラによる撮影調査をし、フォローアップ除染を求めながら、住民の不安解消に努め、長期目標である追加被ばく線量年間1msv以下を目標とし今後もモニタリング調査の過程を踏まえ、徹底した除染を求めていく。本年度事業として、50mメツ

シユで、詳細な村内放射線マップを作成し、不安解消のため情報提供を積極的に図る。

村内での営農、営業再開への支援について

答弁 国の補正予算で、新たに平成32年度まで県基金事業として、原子力被災12市町村農業者支援事業が創設され、営農再開のために要するパイプハウスやトラクター、コンバイン



村内での繁殖雌牛飼育の再開

ン等の導入、農業用施設の撤去にあたって、事業費上限1千万円に對して4分の3、75%の補助率で補助される。又、花の苗や繁殖雌牛の導入等も、一定の補助率の中で活用できる。村が認める取り組みは、上限を3千万円までとする事ができるため、村は事業を最大限に活かして、営農再開を希望する農家の支援をしていく。村は平成29年度当初予算で「生きがい農業」の支援策を提案していく。

地域コミュニティの推進について

答弁 引き続き地域づくり事業補助金を継続し、行政区の自立的な取り組みを支援していく。コミュニティの場としての集会所整備、改修には、費用の2分の1補助を継続する。

各自自治会での絆も今後大切にしたい。例えば自治会解散後に開催される自治会同窓会に対しても、「ままでの村陽はまた昇る基金」を活用し、開催費用の8割程度を負担することなども検討中である。

子どもたちの教育について

答弁 子どもたちの充実した学びが図れるよう、施設整備を進め、

村の学校だからこそできる特色ある教育について協議を行い、学校教育基本計画として策

定を進めている。「いいたたてならではの教育施策」の一端として、民間の学習塾と連携を考えており、発想力やコミュニケーション能力を育む「塾」のノウハウを村教育プログラムに織り込む計画である。村の学校を選んでよかったと思えるような、施策の充実に努めていく。

陽はまた昇る基金の活用について

答弁 国・県の制度の隙間を埋める事業などに使用する。対象事業は、「営農再開・農林業活性化のための事業」への自己負担に対する補助の上乗せや、生きがい農業のための補助を検討している。「企業・商店再開及び操業支援のための事業」でも補助の自己負担への上乗せについて協議を進めている。「教育・福祉の

村の生活環境改善について

答弁 住環境は、計画的に整備、改修を行っており、村内居住を希望する方の需要にこたえられるよう整備を進めて行っている。葬儀場の整備については、平成29年度共用開始に向け整備を進めていく。交通の便の確保については、巡回バスの運行や「地域お助け合い事業」の再構築を検討し、利便性の確保に努める。防犯、住民の安全は、新たな場所へ駐在所を建設し、広域消防と一体となって、防犯、防災にあたっていく。

充実のための事業」ではサービスを行う事業者への補助について検討を進めている。復興・自立の為にを行う研修への支援や、同窓会開催費用補助金等を検討している。

質 避難指示解除後の防災体制は

答 第一に消防団員の確保が重要である

質問 避難指示解除後における防災体制について、中核を担う消防団や女性消防隊の組織の強化及び育成をどのように充実させていくのか。

答弁 消防団や女性消防隊は、地域防災体制の中核的存在であるので、組織強化、育成の前提として第一に消防団員の確保が重要である。

そのために避難指示

解除後、当面は消防団員確保だけでなく、村

をはじめ村内企業や関係機関等が連携して、

消防団員の確保あるいは有事の際の協力体制

に努めたい。さらに、消防団OBなどの活用を

模索したい。

また、消防団員報酬の見直しや団員の加入条件である本村の居住者だけでなく、村内勤務者や転出した元団員

も団員として入団できるようにする条例改正も検討したい。

団本部、倉庫、消防車両や団員の装備は

質問 消防団の施設や

装備の充実には団員の士気の高揚にもつなが

る。消防団本部、水防倉庫を兼ねる消防団倉

庫及び消防車両並びに消防団員の装備の充実

をどのように整備していくのか。

答弁 消防団員の士気高揚を図る観点から、消防団にとって必要な消防団本部、消防団倉庫、消防車両等の施設

整備、オレンジ色の配色をした活動服等の装

備の必要性は理解できるが、平成29年度当初

予算に全てを計上することは難しいので、優

先順位を決め、計画的かつ早期に整備できる

よう取り組んでいきたい。



解体中(12月解体済)の教員住宅(飯館中学校)

質 学校再開施設整備にあたり検討組織の動きや協議経過は

答 多くの方々の関わりや意見を集約し、より良い学びの充実に取り組む

質問 施設等の整備にあたって保護者をはじめ

飯館中学校改修推進委員会、学校運営協議

会、教育委員会の動き、協議経過はどのように

なっているのか。

答弁 6月から飯館中学校改修推進委員会を

設置、6回にわたり協議し、11月末に、村長に報告書を提出した。

教育ビジョンについては、学校運営協議会

で飯館村学校教育基本計画をまとめた。

これらの協議内容や検討状況は、定例教育

委員会で審議いただき、村教育の全体を見渡しての施策展開にっ

既存3小学校の活用方法は

質問 既存の草野小、

飯桶小、白石小の施設を今後どのように活用

していくのか。

答弁 飯館中学校改修推進委員会で提案いた

だいたが、基本的には各学校施設については

改修、ただし、プールなど単独での維持が難

しいものは今回全て解体する。草野小学校に

ついては、文化財の保管展示など公民館の分

館的活用。飯桶小学校については、飯桶地区

のコミュニティセン

ターやデイサービスなどへの利用。白石小学校については、大学等の合宿やNPOなどの

事業所に活用したい。



高野 孝一 議員



相良 弘 議員

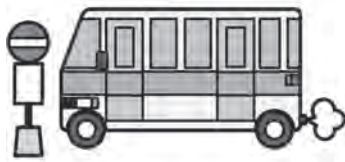
質 帰村者の安心安全確保について

答 デマンド交通の検討もしています

質問 村では避難指示解除に向け着々とインフラ整備を進めているが、村民が安心して帰村できる環境整備が必要ではないかと考える。アンケート調査によると、帰村する村民は高齢者が多く、鮮魚・精肉の生鮮食料品は自家用車を運転して村外で買い物せざるを得ない。さらに医療については、薬剤は、処方箋

をもらい、村外に出向くことになる。高齢者が冬期間運転するには非常に危険を伴う。このようなことから医療バスを兼ねた、買い物バスを村外に運行することができないか。

答弁 帰村して村で暮らす高齢者等の交通の便の確保については、復興計画で、役場や診療所、復興拠点や金融機関等、村の主要施設



等を巡回するバスを運行するほか、村から村外への民間バスの運行について協議を進めているが、既存の民間路線との関係、運行にかかる費用の問題から非常に難しいと考える。変わる手段として、民間バス路線の停留所まで村の巡回バスでつなぐとか、いつとき帰宅バスの運用拡大、地域お助けあい事業による、高齢者等を送迎するしくみの構築等が考えられる。また、いい

たてクリニックに通院される村民を対象に、玄関から玄関まで送迎する「デマンド交通」の検討もしている。

質問 高齢者のため宅配事業は考えられないか。

答弁 現在関係団体と協議中である。

商工会の補助金にCSJ

質問 国・県の補助金は、補助金交付要綱により交付されているが、村補助金は要望書提出後、村の査定によりその年の補助金が交付されている。言い換えれば要望がなければ補助金は交付しないということになる。国県同様、補助金交付要綱なり条例を制定すべきではないか。

答弁 平成24年度からの補助金交付の実績を見ると勤労者互助会担

当職員の人件費等を含め「商工会運営補助金」として、740万円を毎年交付している。

現在までの補助金額の予算計上にあたっては、商工会と翌年度の事業組立などを協議しながら予算計上しており、特に支障はないものと考えている。なお、効果の見込まれる事業に

ついては、村としても予算確保に努めるので、ユニークな事業を提案して頂きたい。

質問 必ず毎年要望書を提出することになるのか。

答弁 要望書を提出しながら年に1回は商工会役員とコミュニケーションを深めることも必要ではないか。



飯館村商工会館



伊東 利 議員

質 河川の堆積物除去が喫緊の課題

答 村が事業主体となって進める

河川の堆積物の除去
Q1052

質問 今年度から新田川の堆積物の除去を実施するとあるが、現在の状況と今後の対策について伺う。

答弁 雑草や樹木が繁茂している状態であり、早急な対応が求められるため、河川管理者である県は今年度から、

草刈り及び堆積土砂の撤去工事を実施している。新田川で二枚橋から関沢の間4,400

mの間で雑草及び立木の処理を実施中です。土砂撤去は大師堂橋から約200m区間のみで土砂はクリアセクターに一時保管する。飯樋川については、西原地内の除草及び堆積土砂を撤去予定です。

来年度からは、村が事業主体となって、復興庁の帰還再生加速事業により実施したいと考えて、現在、県と復興庁と調整中となっている。

除染
Q1053

質問 徹底した除染を常に求めてきたが、フォロアアップ除染を含め完全な除染となっているか伺う。

答弁 村は除染目標値である時間当たり1μSv、年間5mSv以下になるよう徹底した除染を求めてきた。その後、ガンカメラによる調査後、確認されたホットスポット対応の「局所対策工事」として1,372件の除染を行い、実施後50・6%が低減されると報告をうけている。

営農再開支援の対策
Q1054

質問 県の原子力被災12市町村農業者支援事業の内容と、村として活用出来る事業と、また個人的な小規模な農業者に支援はあるのか伺う。

答弁 事業内容は農業者が営農再開に要する事業施設の整備または撤去にかかる費用やトラクター等の農業機械等の導入費用が対象となり、事業費上限1,000万円に対し75%が補助される。この事業は県の会計を経由することなく、県が直接事業者に対し補助金を交付する仕組みになっているが、県に提出する事業計画については一旦、村が整理して県に提出する。また、現在、「陽はまた昇る基金」を活用しての上乗せも検討している。ま

た、小規模のかつ個人的な営農についても、原子力被災12市町村農業者支援事業で対応を考えた。

パークゴルフ場設置
Q1055

質問 パークゴルフ場整備計画は検討されているが、村の状況を伺う。

会員からも村内にパークゴルフ場整備の要望をうけてきたところである。具体的には、今年度には基本設計を予算化しており、12月末には村パークゴルフ協会の方々と整備候補地の現地調査を予定しており、平成29年度には実施設計、そして造成工事に着手をし、平成30年秋頃の完成を目指したいと考えている。



堆積除去が待たれる、雑草・樹木が繁茂した河川

審議結果

12月議会では、平成28年度補正予算案4件、条例7件その2件が審議され、すべて原案どおり可決されました。議題は次のとおりです。

- 平成28年度飯舘村一般会計補正予算(第9号)
- 平成28年度飯舘村国民健康保険特別会計補正予算(第4号)
- 平成28年度飯舘村農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)
- 平成28年度飯舘村介護保険特別会計補正予算(第4号)
- 飯舘村広域的減容化施設影響緩和基金条例
- 飯舘村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の一部を改正する条例
- 飯舘村税条例の一部を改正する条例
- 飯舘村使用料条例の一部を改正する条例
- 飯舘村国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- センター地区調整池機能回復工事請負契約の変更について
- 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書(案)

○は賛成、×は反対を表しています。
議長の大谷友孝は表決に加わりません。

議案名	議員氏名									賛成	反対	審議結果
	相良弘	高野孝一	渡邊計	菅野新一	北原経	松下義喜	伊東利	飯桶善二郎	大谷友孝			
補正予算・条例・その他計12件	○	○	○	○	○	○	○	○	-	8	0	可決

常任委員会

活動報告

総務文教常任委員会（松下委員長以下4名）は、帰村に向けた村営住宅改修の状況及び災害公営住宅に入居した村民の住宅状況について調査を行いました。また総務文教常任委員会及び産業厚生常任委員会合同により蕨平減容化施設の視察を行いましたので、その概要を報告します。

村営住宅の改修及び公営住宅の調査

総務文教常任委員会では、帰村に向けた村営住宅改修の状況及び災害公営住宅に入居した村民の住宅状況について調査を行いました。

はじめに、高橋建設課長等から村営住宅の整備計画等の概要説明を受け、それによれば入居を希望する世帯は118世帯、必要とされる整備戸数は92戸である。

次に笠石住宅団地のリフォームの状況を調査した。その結果外壁の汚れ、塗装の剥がれ、玄関のポリカ屋根破損、障子敷居すべり破損、トイレの汚れ、クロスなどの汚れなどが見受けられるなど避難して5年半の歳月が経過し村営住宅の傷みが目

立っており、29年3月まで完了を目指して修繕が進められている。

また、福島市の県営復興公営住宅（北信団地）を視察した。この公営住宅は24戸が整備され、現在飯舘村が11世帯、他市町村12世帯が入居している。

2LDK車いすタイプの個室を訪問し、入居者に感想を伺ったところ、南向きでとても暖かく明るく過ごしやすい環境であると述べていました。

（所見）

- 1 若い方が村に戻ってこない傾向にあり、村営住宅の整備だけでなく、周辺の環境が重要になる。
- 2 若者定住住宅の入所基準を緩和し、広い年代の村民が入居できるように条例の改正が必要である。
- 3 帰村して村営住宅に入居したいという住民のニーズに合わせ、住宅を整備する必要がある。



笠石住宅団地を調査中の委員

蕨平地区 仮設焼却施設

蕨平減容化施設の視察を行いました。

仮設焼却炉は、1日240トンの処理能力を有し、焼却炉の形式は回転ストーカー式と流動床式となっており、

処理量は34万トン（見込み）で、村内の除染廃棄物及び片付け



蕨平地区仮設焼却施設の全景

ごみ、家屋解体廃棄物と村外の農林業系廃棄物及び下水汚泥を処理するものである。

処理実績は平成28年1月から9月まで1万842トンを処理し焼却残さの発生量は1,943トンである。

空間線量率、放射性物質濃度（地下水）の各項目には異常がなく、焼却残さは安全に管理されています。

議会の主な動き (10～12月)

《10月》

14日

・ 広報編集特別委員会

28日

・ 議会運営委員会

・ 全員協議会

・ 第9回臨時会

31日

・ 町村議会議員研修会
(郡山市)

13日

・ 一般質問

16日

・ 全員協議会

・ 議案審議(最終日)

27日

・ 全員協議会

**新潟県糸魚川
大火災被災者
への支援**

22日 《11月》
・ 蕨平減容化施設視察
・ 高木経済産業副大臣
との懇談会

25日

・ 議会運営委員会
・ 全員協議会
・ 第10回臨時会

《12月》

6日

・ 議会運営委員会

9日

・ 第11回定例会(初日)
・ 全員協議会

平成28年12月22日新潟県糸魚川大火災は甚大な被害をもたらしました。
本村は、東日本大震災の際、全国から多くのご支援をいただきました。よって、今回糸魚川市被災者に対し、9万円の義援金を送りました。一日も早い復興をお祈りいたします。



3月定例会会期日程 (予定)

月 日	区分	開議時刻	日 程
3月 3日(金)	本会議	午前10時	議案の提案・説明
3月 6日(月)	休 会		議案調査
3月 7日(火)	本会議	午前10時	一般質問
3月 8日(水)	本会議	午前10時	一般質問
3月 9日(木)	予算審査特別委員会	午前 9時	予算審査(説明)
3月10日(金)	予算審査特別委員会	午前 9時	予算審査(総括)
3月13日(月)	休 会		議案調査
3月14日(火)	予算審査特別委員会	午前 9時	予算審査(総括)
3月15日(水)	休 会		議案調査
3月16日(木)	本会議	午前10時	議案の審議・採決

次の定例会は3月3日開会の予定です。傍聴は、当日受付となります。

◆受付場所
役場本庁2階
総務課受付

◆お問い合わせ先
議会事務局
0244-4211628



編集後記

厳しい避難生活もついに6年になってしまいました。いよいよ本年3月31日をもって帰還困難区域を除き避難解除となるわけですが、

これまで村民の皆さん方には、多くの課題について何って参りましたが、事故の収束や、すべてが解決されたわけではなく、ようやく新たな復興に向けてのスタートに立つこととなります。

これまでもある程度準備はしてまいりましたが、まだまだ取り組んでいかなければならないことが、残されておりますので、更に住民の方々の生活再建に必要な施策をしっかりと解決をしていかなければならないものと考えております。

今年是最も重要な一年になります。ご理解いただける取り組みと

なるよう協議して参ります。今年一年、議会だよりを通して情報をお伝えして参ります。寒さ厳しい折り健康に留意されますと共に皆様方のご多幸ご活躍をご祈念申し上げます。

新たに相良議員が私たちの仲間となりました。よろしくお願い致します。



相良 弘 議員

発行責任者

議長 大谷 友孝

編集

広報編集特別委員会

委員長 飯樋善二郎
副委員長 渡邊 計
委員 松下 義喜
" 北原 経
" 菅野 新一
" 高野 孝一